

平成 2 2 年度  
広島市教育センター

## 小学校国語科第 4 学年における 話し合う能力を育てる指導法に関する研究

一言語技術の習得と活用を位置付けた単元構成の工夫を通して一

広島市立安西小学校教諭

川崎 紀子

今回改訂された学習指導要領では、児童の思考力・判断力・表現力をはぐくむ観点から、言語活動の充実が必要であることが示されている。学校では言語活動の一環として、児童相互の話合い活動を意図的に設定したり、話合い活動の質的高まりが今後ますます求められると予想される。

話し合う能力を育てるためには、まず受け答えをする技術や様々な角度から物事を見る技術といった言語技術を身に付けさせることが必要ではないかと考え、本研究では、帯時間に言語技術を習得させ、その技術を国語科授業の話合い活動で活用させるという単元構成を設定し、研究授業を行うこととした。

キーワード：話し合う能力、言語技術、問答ゲーム、視点を変える、  
帯時間

## I 問題の所在

今回の学習指導要領の改訂では、「言語活動の充実」が重視されており、教科等の指導に当たって、児童の思考力、判断力、表現力等をはぐくむ観点から、児童の言語活動を充実させていくことが謳われている。このことから、教科等の指導法の一環として、話し合い活動を取り入れることがますます増えてくるのではないかと予想される。

これまでの自身の授業実践においても、随所に少人数での話し合い活動を取り入れてきた。しかし、周囲への影響力が強い児童の意見で話し合いの方向性や内容等が決まってしまう、自分の意見を全く言えないまま話し合いを終えてしまう児童が見られ、自分の意見を明示した原稿をそれぞれの児童が読み終えた後、出された意見を交流させることができずに終わってしまうことも少なくなかった。

教師が話し合い活動の場を適切に設定していないことや、話し合いの方法も十分に指導できていないこと、さらには、児童相互の人間関係がうまくいっていないこと等も原因の一つであろうし、考えながら聞いたり、話したりするなどの話し合いの基盤となる言語技術を身に付けていないことも大きな原因の一つではないかと考える。

## II 研究の目的

言語技術の習得と活用を位置付けた単元構成を具体化するとともに、話し合う能力を育てるための効果的な指導法を探る。

## III 研究の方法

- 1 研究主題に関する基礎的研究
- 2 研究仮説の設定
- 3 研究授業実践計画
- 4 研究授業の実際と分析・考察

## IV 研究の内容

### 1 研究主題に関する基礎的研究

#### (1) 話し合う能力とは

小学校学習指導要領解説国語編には、第3学年及び第4学年の話すこと・聞くことにかかわる内容が次のように示されている。

- 話題設定や取材
  - ア 関心のあることなどから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。
- 話すこと
  - イ 相手や目的に応じて、理由や事例を挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
  - ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。
- 聞くこと
  - エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。
- 話し合うこと
  - オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案の役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

このことを踏まえ、広島大学大学院の難波博孝教授が提唱する話し合いの三つの要素としての、「話す」「聞く」「まとめる・つなぐ」を参考に、本研究における話し合う能力を次のように設定した。

- 話す
  - ・相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと
- 聞く
  - ・話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること
- まとめる・つなぐ
  - ・司会などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合う能力
  - ・互いの考えの共通点や相違点を考え、他者の発言とつなげたり、かかわらせたりしながら話し合うこと

#### (2) 言語技術とは

精選版日本国語大辞典によると、言語技術とは、「ことばの技巧。言語を効果的に用いて、上手に

人を説得したり、意思の疎通をよくしたりする技術。」\*と示されている。本研究では、話し合う能力として活用できるよう、言語技術を次のように設定することとした。

①情報を主体的に獲得し、②自分の考えを組み立て、③分かりやすく発信するための「聞く」「読む」「話す」「書く」に関する技術（スキル）

出典：広島県教育委員会「平成18年度『ことばの教育』パイロット校事業実践事例集

さらに、上掲の言語技術について下線部①～③の具体を次のように捉えることとした。

- ①「情報を主体的に獲得する」：無意識のうちに聞こえてくる情報の受信ではなく、「考えながら聞く・読む」こと
- ②「自分の考えを組み立てる」：獲得した情報をもとに考えたり、自分の意見をもったりすること
- ③「分かりやすく発信する」：場面や目的に応じて「考えながら話す・書く」こと

出典：広島県教育委員会「平成18年度『ことばの教育』パイロット校事業実践事例集

また、広島県教育委員会では表1のように言語技術を、目的別に該当する活動と活動内容に整理しており、参考とすることとした。

表1 言語技術と活動

	言語技術	目的	活動	活動内容
ア	受け答えをする技術	②③	問答ゲーム	問いに対して、適切に答へ自分の考えを、主述の整った文で答える活動。
イ	要点をまとめる技術	①③	再話	原話等の筋を聞いて出し、それを再構成して文脈にする活動。
ウ	構成を考える技術	②	物語の構造分析	物語の基本的な構成(冒頭・発端・展開部分・クライマックス・結末・結末)を考える活動。
エ	様々な角度から物事を見る技術	②	視点を変える	見る立場を変えることで、物事の見え方や感じ方、考え方が異なることを理解する活動。
オ	情報を正しく伝える技術	③	描写・説明	描写については描写に適切な言葉や表現の活用、説明は、自分が見たものについて伝える活動、説明は相手が必要のない物事や仕組み、働き、状況等について伝える活動。
カ	情報を的確に分析する技術	②	絵の分析	絵や図表の中にある情報をもとに、表現されているテーマ等を読み取る活動。
キ		②	テキストの分析	物語や小説、資料等を様々な角度から読み取り、読み取った情報をもとに自分の考えを述べる活動。

出典：広島県教育委員会「平成18年度『ことばの教育』パイロット校事業実践事例集

### (3) 話し合う能力と言語技術の関係性

本研究の研究授業における単元では、表1のア、エの言語技術を重点的に取り上げることによって、話し合う能力を育成することにつながることを捉えた。

アの「受け答えをする技術」は、問われている内容を理解し、自分の考えを整理して答えるとい

う活動をゲーム化した活動によって身に付けられる「問答ゲーム」を実施することとした。問いを受け取り、思考・判断し、答えることを繰り返すことは、話し合いの基盤となり、話し合う能力を高めるために効果的であると考えたからである。

また、エの「様々な角度から物事を見る技術」は、立場を変えることによって、物事の見え方や感じ方、考え方が異なることを理解することとし、「視点を変える」活動を行うことで身に付くと捉えた。このことにより、話し合い活動において相手の立場に立って考えたり、違う視点から意見を出したりすることにつながり、共通点や相違点を考えながら聞いたり、話し合いを活性化させたりすることにつながると考えたからである。

併せて、これらア、エの言語技術の習得につながる活動を、児童の実態に合わせ、15分×6回という帯時間で行うこととした。

また、話し合う能力を育成するに当たって、言語技術の習得の場（帯時間）と活用（国語科の授業時間）を位置付けた学習モデル（図1）を作成した。

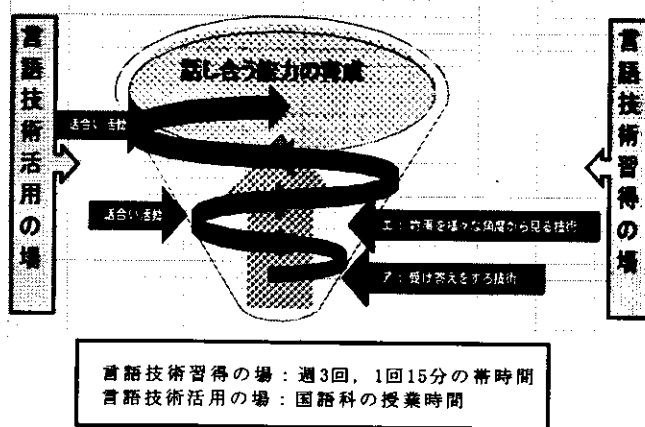


図1 話し合う能力を育成する学習モデル

## 2 研究仮説の設定

小学校国語科第4学年の「話すこと・聞くこと」領域の単元において、帯時間で言語技術を習得させ、国語科授業で活用させる場を設定すれば、話し合う能力の向上につながるであろう。

## 3 研究授業実践計画

(1) 単元計画の作成

広島市立A小学校第4学年2組32名を対象に、単元「くらしの中の世界について話し合おう『くらしの中の和と洋』」を取り上げ、帯時間の単元目標と、国語科授業の単元目標をそれぞれ設定し、単元指導計画を作成した。

(2) 帯時間の単元目標

○「A 話すこと・聞くこと」

(1) 指導事項

イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。

エ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。

(2) 言語活動例

イ 尋ねたり応答したり、グループで話し合っって考えを一つにまとめたりすること。(問答ゲーム)

○〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

イ(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。

(3) 国語科授業の単元目標

○「A 話すこと・聞くこと」

(1) 指導事項

オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会者や提案者、参加者の役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

(2) 言語活動例

イ 学級で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

○〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕

イ(ク) 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解すること。

(4) 単元計画作成における工夫点

ア 帯時間で言語技術を習得させ、国語科授業で活用させる単元構成とした。

イ 話し合い活動の場をできるだけ多く設定した。

ウ 教材文を活用した指導をした。

エ 代表グループの話し合い活動を見て学ぶ場を設定した。

表2 単元指導計画

次	時	学習活動 (評価方法)	評価の観点		
			国語の能力 の育成	話し 合いの 技術	言語 生活 の 態度
<b>第1回 問答ゲーム① 問答ゲームに慣れよう (国語科授業)</b>					
一	1	○題名の「和」と「洋」について思い付くことを出し合う。 ○全文を通読し、学習の見通しをもつ。 ○初発の感想を書き、交流する。  (行動観察)	○		
<b>第2回 問答ゲーム② おいづちを入れて話をもたせよう (国語科授業)</b>					
二	2	○文章全体がいくつかのまとまりで書かれているのかを確かめる。  (発言・ワークシート①)			○
<b>第3回 問答ゲーム③ 質問して話を深めよう (住かゆらどちうを語る?)</b>					
	3	○序論について読み取る。 ◇司会の仕方について学習する。  (I夫3, I夫4)			○
	4	○本論Ⅰについて、意見発表するときの考え方として読み取る。 ◇はしとフォークに置き換えて考え、話し合う。  (発言, I夫3)			○
	5	○本論Ⅱについて、意見発表するときの考え方として読み取る。  (I夫1・2・3, 発言・ワークシート①②)			○
	6	○本論Ⅲについて、意見交換するときの質問の仕方として読み取る。  (I夫3, 発言・ワークシート①②)			○
<b>第4回 習得を定める① 「和洋どちうを語る」のポイントを考えよう</b>					
	7	○結論について、読み取り、新たな課題意識をもつ。 ◇和と洋でどんな話題で話し合いをしたいか話し合う。  (I夫1・2・3, I夫3, 発言・ワークシート②③)			○
<b>第5回 習得を定める② 「和式トイレと洋式トイレ」のポイントを考えよう</b>					
三	8	◇和式トイレと洋式トイレの良さについて話し合いをする。 ◇代表グループが話し合いを行い、他の児童は聞き手として参加する。  (I夫1・2・3, I夫4, 発言・ワークシート③)			○
<b>第6回 習得を定める③ 「ごはんとパン」のポイントを考えよう</b>					
	9	◇ごはんとパンの良さについて話し合いをする。  (I夫1・2・3, 発言・ワークシート③)			○
	10	◇代表グループが話し合いを行い、話し方・聞き方の良さを見つける。 ◇せんべいとクッキーについて話し合いをする。  (I夫1・2・3, I夫4)			○
		◇単元のまとめをする。  (発言・ワークシート③)			○

#### 4 研究授業の実際と分析・考察

##### (1) 帯時間授業の実際

###### ア 問答ゲーム

###### (ア) ルール

- ① 主語を入れる
- ② 結論を先に言う
- ③ 根拠を言う
- ④ ナンバリングをする

###### (イ) 話型

A: 「あなたは、□ならば、  
○と△ではどちらを選びますか？」  
B: 「私は、○/△を選びます。  
わけは、～だからです。」

###### (ウ) 話題

帯第1時:

「雪ならば、雪合戦と雪だるまづくり」

帯第2時:

「お年玉で買うなら、本とゲームソフト」

帯第3時:

「住むなら、一戸建てとマンション」

###### イ 視点を変える

###### (ア) 実際

「視点を変える」ワークシート(図2)への記入をする。まず、教師が指定した視点について児童は本時の話題に沿ってどちらがよいかを考え、理由を記入する。次に視点自体を自分で設定し、どちらがよいかを選び、その理由について記入する。

図2 「視点を変える」のワークシート

###### (イ) 話題

帯第4時: 「一戸建てとマンション」

帯第5時: 「和式トイレと洋式トイレ」

帯第6時: 「ごはんとパン」

(国語第10時: 「せんべいとクッキー」)

###### (2) 国語科授業の実際

###### ア 読解場面(第1時~第7時)

第1時では、結婚式の違いを「和装と洋装」の写真を提示しながら、「和と洋とはどういうことなのか」について考えさせ、本単元の学習の見通しをもたせた。第2時では、キーワード等をもとに、教材文の構成を考えさせた。第3時~第7時では文章のまとまりごとに和と洋で述べられていることを表にまとめながら読み取らせた。また、読み取りながら話し合いの仕方を示した資料(図3)等を使い、話し合いの仕方や司会の役割などについて学習させた。

図3 「話し合いの仕方」の資料

###### イ 話し合い場面(第8時~第10時)

第7時では、児童が設定した三つの話題について、1時間ずつ話し合わせた。児童は、第3時に話し合いの仕方を学習しており、話し合い自体はスムーズであった。第3時では「視点を変える」ワークシートを用いながらも共通点や相違点を考えながら話し合うことができない班もあったが、他の班の話し合いを見たり、教師の助言を聞いたりし、回を重ねるごとに活発な意見交換ができるようになった。

表3は、第8時において、抽出班の話し合い場面の様子(10分)を示したものである。

表3 話し合い場面の様子

	C1(司会)	C2	C3	C4
話し合い場面	① これから、「和式トイレと洋式トイレの良さ」について話し合います。新久くんからどうぞ。			
	② 夜は石川さんからどうぞ。	② ぼくはお手習りの横席で考えると、洋式トイレが便利だと思いました。わけは、和式トイレだと、立ち上がるのが難しいと思うからです。		
	③ 次に中田くんからどうぞ。		④ 私は、体力がつくという横席で考えると、和式トイレが便利だと思いました。わけは、座たすむのをだけでいいけど、和式だと座で落ちないといけないからです。	
	④ 質問はありませんか。(少し時間を置いて) ない？			⑤ ぼくは、バスに連れそうなる人の横席で考えると、洋式トイレが便利だと思いました。わけは、和式トイレは起き上がるのが大変だけど、洋式トイレだとすぐに起き上がるからです。終わります。
	⑤ 質問があれば意見を聞きたいと思えます。	⑥ [小さな声で理由に促すように] 質問がなければ意見... 司会を補助する発言。全員が話し合いの深めや司会の役割を担っているから積極的に発言を促される。		
	⑥ 洋式トイレの良さがよく出ていたけど、和式トイレのこと、ありますか？	⑦ 和式って総理にいいんじゃない？わからんけど。		
	意見が出ないので、わけを聞いて意見を促している。	⑧ ぼくは幼乳の横席で考えると、和式トイレがいいと思います。わけは、幼乳は座が小さくて、いすにすわる。あ、洋式トイレにすわる時の高さや合わないと思うから、触れそうだから、和式トイレの方がいいかなあ、と考えました。		
	⑦ やあいいよ。別にいいよ。(話を促すように)	⑨ ぼくは、そうじや手入れの横席で考えると、和式トイレがどうかと思いました。わけは、洋式トイレだと、便器もふかきやらないからです。		
	⑧ (C3に向けて) ある？ ない？	⑩ ぼくは、そうじや手入れの横席で考えると、和式トイレがどうかと思いました。わけは、洋式トイレだと、便器もふかきやらないからです。		
	公平に全員から意見を促すように発言。特定の人のみの発言にならないよう配慮していると考えられる。	⑪ 和式しかない。		
	⑨ 質問、和式トイレのこと聞いてる人ははいませんか？ 聞いて下さい。	⑫ 学校のトイレだったら和式の方がいいんじゃない？		
		⑬ 意見をなんですか？ 理由を聞く質問。根拠に基づいて話し合いたいという意図。	⑭ いろんな人がすわつたらいやじゃん。	
		⑮ 誰かにそれはあるね。具体的なあいづち。相手の受け入れを促している。		
		⑯ でもおれたちの先輩の所、洋式じゃん。		⑰ へえ、そうなん？ 聞きやめかのとまだあいづち。
		⑰ 知らなかったん？		
分析	①②③④⑤	司会開始に沿って、進めている。	話し合う相手とのかかわり	議題説明
	②④⑥⑧⑨	問答ゲームの類型を判別して意見を言っている。	まとめる: 司会の役割を果たしながら進行に沿って話し合う	問答ゲーム①
	⑥⑩	司会を助ける発言。	話す: 理由を挙げながら論点を立てて話す	
	⑦⑧⑯	あいづち。相手の受け入れから自分の考えを話す。	まとめる: 司会の役割を果たしながら進行に沿って話し合う	問答ゲーム②
	⑧	質問。	つなぐ: 相手の発言とつなげたりかわらせたりしながら話し合う	問答ゲーム③
	⑨⑩⑰	和式トイレの良さについて、横席を意見で話している。	開く: 質問したり感想を述べたりする	横席を伝える
	⑰	ワークシートには和式トイレの良さを認識していないが話し合いの中で新たな認識を出して話している。	まとめる-つなぐ: 互いの共通点や相違点を考えで話し合う	横席を伝える

(3) 研究授業の分析・考察

ア 話し合い場面の分析と考察

第3時に司会の仕方を学習して以来、司会を立てての話し合いの場を多く設定したため、上掲表3の話し合いの場面では、司会を立てての話し合いに慣れてきた感がある。⑧や⑯のように、司会経験のあるC2がこの場面の司会者をフォローする場面が見られる。また、C1は、⑮のように、話し合いに入り込めないC3に意見を求めるなどの司会としての役割を果たしている。これは、高学年の目標である「計画的に話し合う」ことにつながり、学習の成果と捉えることができる。

また、②④⑥⑩⑭⑰の話し合いからは、問答ゲームの

学習内容が表出したことが伺える。一方、話型にこだわらない意見交換場面でも⑮のように理由を問う質問をし、話し合いを深めることにつながっている。

さらに、⑩以降の話し合いでは「和式の良さ」に話題を焦点化することで、多様な視点から和式トイレの良さを出そうとしていることが伺える。このことは、互いの考えの共通点や相違点を考えることにつながっていると捉えられる。また、同じく「和式トイレの良さ」に話題を絞ることで、C3が発した⑮のように、ワークシートに記述していない視点を出して話すことができているのは「視点を変える」学習の成果と捉えることができる。

## イ 振り返りカードの記述より

図4は、第1時から毎授業後に記入した振り返りカードでの、話し合う能力につながる項目ア～ウについて記述した児童の人数の変遷を示したものである。

項目アイウとも、回を重ねるごとに記述した人数が増えていることが分かる。イでは、友達の意見を聞き、自分の考えとの違いを認識することが多くなっており、アの互いの考えの共通点や相違点を考えながら話し合うことと連動しているのではないかと考えられる。また、ウにおいては第10時に限り人数の減少が見られるが、これはモデルとなる話し合いを見た後に活動したため、児童の意識が話し合いの方法ではなく、内容に向けたための結果ではないかと推察される。

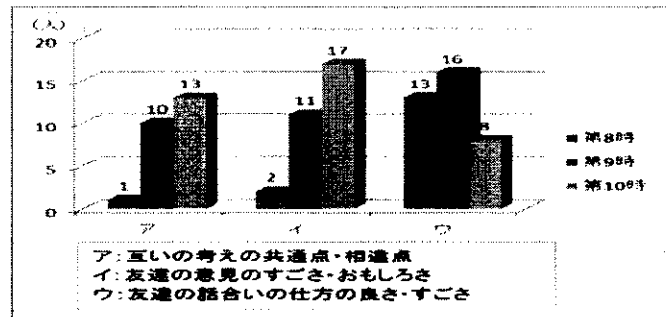


図4 振り返りカードの記述から

## ウ 振り返りカードの記述の実際

表4は表3に示した抽出班児童の振り返りカードへの記述内容である。徐々に記述量が増えていることが分かる。また、内容的にも互いの考えの共通点や相違点の記述も増えており、話し合う能力が向上していくことを予感させるものである。

表4 振り返りカードへの記述の実際

	第8時	第9時	第10時
C1	話し合いをして、和式トイレと洋式トイレのことを話し合いました。洋式トイレの方が多かったです。	車の中で食べるので、私はごはんの方にしました。わけはパンくずがこぼれるからにして、C2はパンにしてみました。おせんべいとクッキーの良さを知りたいです。	話し合いまして、自分とくらべてできたので、ちがうところがいっぱいありました。食事を食べる前に食べる視点があって、C4はクッキーの方がいいって言っていて、わけはあまりおなかいっぱいになるからと言ってたけど、わたしはせんべいでクッキーは甘いからすぐおなかいっぱいになるんじゃないかなと思ったけど、こんな考えもあるんだなと思いました。
C2	代表でして、その時はあまりできなかったけど、その前は盛り上がった。	友達のお弁当のごはんをおかずにかうってというのが思いつかなかった。	あいづちや質問ができた。友達の考えで全く同じのがあった。
C3	今日、みんなの前でやったけど、すごく楽しかったです。でも楽しかったです。	C1と同じ所が3つありました。車の中で食べるとしたら、2(ごはん)対1(パン)で分かれたけど、パンの意見を聞いて納得しました。和式トイレの話し合いより上手になったと思いました。	意見交換の時、学校で食べるとしたらとか、おこった時に食べるとしたらとかの視点でとかあったのですごく盛り上がりました。トイレの話し合いなら、「ごはんとパン」の方が良かったけど、「ごはんとパン」の時話し合ったら「おせんべいとクッキー」の方が良かったと思いました。
C4	今日はC1が司会をして、みんなの前でちゃんとできました。	今日はぼくが司会をして、みんな意見を言ったり、質問がきちんと言っていた。みんなの視点がおもしろかった。パンの意見もごはんの意見も両方、みんな言っていた。C1とC3の意見が同じだった。赤ちゃんの意見もいろいろ出ていた。今日は意見がたくさん出た。	あいづちがちゃんとできた。ぼくもまとめておせんべいやクッキーの意見がたくさん出た。ぼくとC2とC1の意見が全く一緒だった。今日はC3が司会をやった。話し合いは今日で終わりなのでまたやりたいです。

## V 研究のまとめ

本研究では、小学校国語科第4学年の「話すこと・聞くこと」領域の単元において、話し合う能力を育てるための指導法を探った。

その結果、帯時間で言語技術を習得させ、国語科授業で活用させる場を設定すれば、話し合う能力の向上につながる可能性があるという実感できた。同時に、「まとめる・つなぐ」を意識した指導が重要であるということや、グループでの話し合いを見取るための教師のスキルの向上が必要となってくることなどが分かった。

今後は、本研究の成果をもとに他の単元においても実践する中で、どの単元でどのような言語技術

を習得させれば、国語科授業で生かすことができるかについて明らかにし、学年と、扱う言語技術を体系化させていきたいと考える。

## 参考文献

- ① 文部科学省『小学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社、2008年
- ② 広島県教育委員会『平成17年度「ことばの教育」パイロット校事業実践事例集』
- ③ 広島県教育委員会『平成18年度「ことばの教育」パイロット校事業実践事例集』
- ④ 三森ゆりか『言語技術教育の体系と指導内容』明治図書、1996年